



東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (East Asian-Australasian Flyway Partnership)

EAAFP 国内ニュースレター

Vol. 4 (2025 年 3 月発行)

発行：環境省自然環境局野生生物課

業務請負者：ラムサール・ネットワーク日本

● EAAFP 渡り性水鳥フライウェイ全国大会が開催されました

国内の3つの種群ネットワーク（ガンカモ類、ツル類、シギ・チドリ類）を対象とする「EAAFP 渡り性水鳥フライウェイ全国大会」が、2025 年 2 月 28 日（金）と3月1日（土）の2日間にわたり佐賀県佐賀市で開催されました。このフライウェイ全国大会は、EAAFP の渡り性水鳥重要生息地ネットワーク（ネットワーク参加地）の関係自治体、湿地管理者や保全活動への参加者などのステークホルダーが渡り性水鳥とその生息地の保全活動を効果的に促進し、情報交換や人的ネットワークを強化することを目的とし、年に一回程度開催しているものです。

初日は、佐賀商工ビル（佐賀市）において、各地域の取組や活動に関する講演会がハイブリッド形式で開催されました。

佐賀市環境部副部長の梶山孝英氏の開会挨拶から始まり、EAAFP 事務局（韓国インチョン市）の Jennifer George 事務局長からのお祝いのビデオメッセージと、2023 年に東よか干潟と姉妹湿地提携を締結した米国アラスカ州のクパルック湿地からの激励のビデオメッセージが放映されました。環境省からは、EAAFP の概要と国内における取組について説明しました。

講演会では、はじめに佐賀市環境政策課の金ヶ江佑介氏より日本国内においてシギ・チドリ類の飛来数が最も多い干潟である東よか干潟（ラムサール条約湿地、EAAFP 重要生息地ネットワーク参加地）における近年の取組について発表がありました。続いて、佐賀大学農学部川村嘉応特任教授より有明海におけるノリ養殖の歴史やカモによる食害などの直面する課題について発表がありました。また、日本野鳥の会佐賀県支部の宮原明幸支部長から有明海に飛来するシギ・チドリ類の個体数の動向について報告があり、山階鳥類研究所標識調査員の細谷淳氏から東よか干潟に多数飛来するハマシギの生態や渡りの追跡調査について発表がありました。姉妹湿地提携の取組として、1998 年にオーストラリア・ブリスベン市と湿地提携を締結した谷津干潟（千葉県習志野市）の阿久津斉氏からは、市民による湿地交流への参加や活動支援について報告があり、EAAFP のシギ・チドリ類作業部会の柏木実氏からは、同作業部会の活動説明に加え、日本で初め



写真 1. 佐賀市環境部副部長
梶山孝英氏の開会挨拶



写真 2. 1 日目の講演会の様子

て記録された亜種キタアラスカハマシギがクパルック湿地からの個体だったことが、1996 年に判明したことが共有されました。

九州のネットワーク参加地である球磨川河口（熊本県八代市）からは、八代市環境課の園部慎治氏より子供たちによる干潟を守る宣言や、干潟とともに生きる人々の輪を広げるさまざまな取組について発表がありました。また、出水ツルの越冬地（鹿児島県出水市）からは、出水市ツル博物館クレインパークいずみの原口優子氏より、ツル類と湿地の保全の取組や、ラムサール条約湿地の登録や湿地自治体認証の取得を活用した計画について発表がありました。

2 日目は東よか干潟で現地見学が行われました。まずは、東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」の古川館長はじめ、スタッフ、ボランティアガイド、子供ラムサールクラブのメンバーなど多くの関係者から、ひがさすの案内や、東よか干潟の生き物やボランティア活動の紹介をしていただきました。また、東よか干潟の観察では、日本野鳥の会佐賀県支部の方々からご案内いただき、羽を休める数多くのダイシャクシギ、ツクシガモ、ズグロカモメなど有明海を象徴する渡り鳥に加え、数千羽のハマシギが日差しにきらめきながら飛び回る姿などを堪能することができました。最後に、環境省野生生物課の中澤課長から EAAFP の活動を更に活発にしていくためにラムサール湿地や気候変動等の多様なフォーラムとの連携が必要との話がありました。関係者のみなさま、あたたかいおもてなしをいただいた佐賀市の皆さま、ご協力を誠にありがとうございました。

来年度はぜひ自分たちの湿地で全国大会を開きたい！という自治体の方は、環境省までご連絡ください。

東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」：<https://www.higasasu.city.saga.lg.jp/>



写真 3. 2 日目の現地見学の様子

● EAAFP 国内連絡会が開催されました

EAAFP に関連する国内の活動や渡り性水鳥・生息地の保全状況等について共有するとともに、課題を整理し、今後の取組の方針について検討するため、毎年、専門家を招集して国内連絡会を開催しています。今年度は、2025 年 2 月 25 日に対面・オンライン併用で開催し、2024 年度の活動報告、2025 年度の活動計画、第 12 回パートナー会議（MOP12）に向けた国内における取組に関する報告や意見交換を行ったほか、EAAFP の実施に関係の深い NGO のみなさまからも情報共有いただきました。

● EAAFP 第 12 回パートナー会議（MOP12）が開催されます

次回の EAAFP 第 12 回パートナー会議（MOP12）は、2025 年 11 月にフィリピンで開催予定です。環境省も同会議に出席し、国内における取組状況を共有するとともに、フライウェイ規模の渡り性水鳥の保全に関する交渉に参加し、情報収集を行います。